

「若手研究者問題」解決に向けた歴史学関係者の研究・生活・ジェンダーに関するウェブ・アンケート調査へのご協力をお願い

現在、歴史学を専攻し、専門的知識と技能を持った若手研究者のかなりの割合が、博士課程修了・満期退学もしくは研究機関研究員の任期終了後、研究を継続することにきわめて大きな困難を抱えていることは、ご承知のことと拝察いたします。この問題は単に特定の世代の問題ということではありません。私たちが現状を看過しつづけることで、次世代の担い手が歴史研究者を志すことを忌避し、今後、歴史学全体が後継者問題に直面することになりかねない状況にあります。

日本歴史学協会は、常任委員会内部に若手研究者問題検討委員会を設置し、日本社会学会をはじめとする先行する取り組みを参考にしながら、歴史学領域における研究・生活・ジェンダーに関する実態調査の実施に向け準備してまいりました。この度、歴史学領域の「若手研究者問題」の現状把握と解決に向けた情報の収集を目的に、若手はもとより全ての世代の歴史学関係者を対象とするアンケート調査を行うことになりました。

本アンケートは、全ての世代の方々に回答をお願いしています。歴史学にとっての「若手研究者問題」は、大学教員、中高教員、学芸員などの専門家をどのように養成するか、そして研究・教育に携わる者が大学改革などに直面しながら、どのような研究・生活を営み、どのような課題を抱えているのか、という世代を超えた問題です。したがって、この問題を総合的に把握するためには、世代を超えた情報提供と意見交換が不可欠となります。

本アンケート調査は、歴史学における「若手研究者問題」の実態を明らかにし、歴史学を次世代にとって魅力ある学問分野とするために、日本学術会議をはじめ関係諸機関に有益な提言を行うことを目的としています。

本会の加盟学協会および歴史学関係者の皆様に、本アンケート調査へのご協力をお願い申し上げます。

【ウェブ・アンケート】

期間： 2015年9月24日～2016年1月16日

対象： 全ての世代の歴史学関係者

URL：<https://sites.google.com/site/jhcwebsurvey/home/questionnaire>

アンケートの回答にはおおよそ20分程度かかります。

Researchmapなど、これまでの研究業績をまとめた資料を参照しながら記述することで、アンケート回答時間は短縮できると思います。

またアンケートの性格上、複数回の回答することはお控えください。

今回のWebアンケート調査の背景として、歴史学領域の若手研究者の減少という問題があります。この問題については、以下のURLから参考資料をダウンロードできます。「史学専攻院生の推移」というファイルをご参照ください。大学院重点化以降の20年間に史学専攻の大学院生・志願者がいかに減少してきたかのかが、理解できると思います。

<https://sites.google.com/site/jhcwebsurvey/can-ka-zo-liao>

日本歴史学協会

若手研究者問題検討委員会

赤羽目匡由 浅田進史 小沢弘明（委員長）

菊池信彦 崎山直樹 瀬畑源

永山聡子 野口華世 中野聡

服藤早苗 山田邦明 若尾政希